東洋文庫所蔵本に押捺された蔵書印
について

既刊連載目次

〇 既刊連載目次

一 朝鮮本に押捺された朝鮮の蔵書家所蔵

二 僧侶・寺院の蔵書印

三 国学者の蔵書印

四 学校・教育機関の蔵書印

五 漢学者・漢詩人の蔵書印

六 医家・本草家の蔵書印

書報 35号

書報 36号

書報 37号

書報 40号

書報 41号

書報 42号

書報 38号

書報 39号

書報 40号

書報 41号

書報 42号

書報 38号

書報 39号

書報 40号

書報 41号

書報 42号

書報 38号

書報 39号

書報 40号

書報 41号

書報 42号

書報 38号

書報 39号

書報 40号

書報 41号

書報 42号

書報 38号

書報 39号

書報 40号

書報 41号

書報 42号

書報 38号

書報 39号

書報 40号

書報 41号

書報 42号

書報 38号

書報 39号

書報 40号

書報 41号

書報 42号

書報 38号

書報 39号

書報 40号

書報 41号

書報 42号

書報 38号

書報 39号

書報 40号

書報 41号

書報 42号

書報 38号

書報 39号

書報 40号

書報 41号

書報 42号
サトウ（Ernest Mason Satow 一八四三—一九九二）

イギリスの外交官。日本学研究者。一八四三年ロンドン生まれ。日本名佐藤愛之助。号は藤道。英仏仏語学を学び、一八六一年イギリス内務省極東派遣通訳生試験に合格し、翌年に来日。一八八三年に帰国するまで通訳官・書記官として、日本に滞在した。一八八六年駐清公使を最後に外交官生活を引退して研究に専念し、一九二九年デボンシャーにて死去。著書に『日本耶稣会刊行書目』『外交実務案内』がある。藏書家として知られ、羼集した古典籍の大半が大英図書館に寄贈されているほか、従光クリストファー・ドン・ロンドン大学やロンドン大学にもまとまったコレクションが現存する。

【英国藤道藏書】（48）『珍材名品図録』（八五五）

【英国藤道藏書】（48）『珍材名品図録』（八五五）

【英国藤道藏書】（48）『珍材名品図録』（八五五）
英王堂藏書

イギリスの言語学者、日本学研究者。号は王堂。一八五〇年、海軍中将ウィリアム・チャールズ・チェンバレンと同郷としてボローニャに生まれる。一八七三年に来日。海軍兵学寮教師を経て、一八八六年東京大学文科大学教員として博物学（言語学）を講じた。わが国における近代的国語学の開拓者であり、上田万年はその門下生のひとりである。英語古事記、日本一九三五年レマン湖畔に没す。和漢書の蒐集にも努め、箱根湯本に書を設け、王堂文庫と称した。親父のあったアーネスト・サトウから蔵書数干冊を譲られており、『英国薩摩蔵書』等著述した。スイスのジュネーブに居たところから、これに該当するものと想われる。チェンバレンの英語古事記は、学僕杉浦藤四郎に譲り、後に愛知教育大学附属図書館に上田万年継承分が日本大学文理学部図書館に譲されている。東洋文庫収蔵のチェンバレン旧蔵書は、上田万年文庫（九三八年遺贈）中に一部四冊、岩崎久弥寄贈書（岩崎文庫）中に一二件六冊、その他一九四四に購入の和著が一九四四年四冊に増補される。
한글 (각각-모-모-모-모) [번역용으로]
(각각-모-모-모-모) [번역용으로]
(각각-모-모-모-모) [번역용으로] *
(각각-모-모-모-모) [번역용으로]
(각각-모-모-모-모) [번역용으로]
(각각-모-모-모-모) [번역용으로]
(각각-모-모-모-모) [번역용으로]
(각각-모-모-모-모) [번역용으로] (모-모-모-모-모) [번역용으로]
Autograph Letters from and to Lacadio Heen

(A) [1-2]

(B) [1-2]
ミンズ（Ellis Horace Mints）は、イギリスの考古学者。一八七四年生まれ。ケンブリッジ大学を卒業し、一八九七年からフランス・ロシアに遊学し、北方ユーラシア考古学を専攻した。ロシアでの研究成果や調査報告書類を整理し発展させ、スキト・シベリア文化の原郷を南方ユーラシアと考える説を提唱するなど、スキタイ文化研究を広く世界史的な関心にまで引き上げた功績者である。梅原未治は、欧米留学中に知遇を得てのち永く親交した。一九二七年からケンブリッジ大学教授。一九二八年からはベンプー・ロック・カレッジの学長を務める。言語学者でもあり、また、ナイトの称号を持つ「スキタイ人とギャリア人」などの著書がある。一九三三年没。掲出書は梅原未治旧蔵書である。標題紙に著者ミンズの献呈辞が記されているところから、両者の交友が確かである。
ハンガリーの王立電報通信社特派員。在日ハンガリー公使館通訳官。一九二九年にハンガリーのエイトオクロッック紙の特派員として来日。一九三九年に再来日して以降、日本・ハンガリー両国の親善に尽力した。勤務の傍ら独力で洪日辞典・フィ・アカデミー会員。主な著書に『洪牙利史』が、訳書に『ペトローイ詩』『若き英雄トルデイー』があ。在留洋人中の有力者で、両大戦間の日洪関係において重要な役割を演じる。白鳥庫吉は来日後より親交があった。横浜市中区本牧に住まう。戦後はアメリカ・ロサンゼルスに移住。

掲出印は奥付に捺された著者签印である。

【目附】（10）
若き英雄トルデイー（Ⅶ・五・三〇）
*洪牙利史（X・七・〇〇八）
勇士アノシュー（E・九九三・七・ヘテ〇〇〇〇〇〇）